

令和3年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀市立若楠小学校	達成度（評価）
1 前年度 評価結果の概要	ほぼ全ての項目で「A：十分達成できている」という結果になった。次年度に向けて以下の点を改善したいと考える。 ・より思考力を高める学習へとなるために、「自ら課題をもち、課題を解決し、自らの学びを認知させていく」指導に関する研究を継続していく。 ・子どもたちが互いを認め合う学級・学校経営の実現に向けて、人的環境のユニバーサルデザインの考えた指導を職員全体で共通理解し、取り組んでいく。 ・これまでに築いてきた子どもと地域の関係性をより活かした教育を行うために、コミュニティースクールとしての学校運営に向けて準備等を進めていく。	A : 十分達成できている B : おおむね達成できている C : やや不十分である D : 不十分である
2 学校教育目標	「夢をもち、明るく笑顔で生き生きとチャレンジする児童の育成」 ～たくましく ゆたかに ひびけ われら若楠～	
3 本年度の重点目標	①明るく共生する子どもを育てる「心の教育の推進」、②かしこく創造する子どもを育てる「確かな学力向上の推進」 ③たくましく伸張する子どもを育てる「健康教育の推進」、④ふるさとを愛し、地域と共に成長していく子どもを育てる「開かれた学校」の推進 ⑤職員の働き方改革の推進	

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価	主な担当者
評価項目	重点取組 取組内容 成果指標 (数値目標)	具体的取組 達成度 (評価) 最終評価 評価 学校関係者評価 意見や提言

●学力の向上	●全職員による共通理解と実践 ○基礎学力の定着 ○「授業作りのステップ1・2・3」を徹底した上での「協働的な学び」を取り入れた授業作りの推進	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上 ○県学力状況調査で、4、5、6年の各教科全ての領域で、県平均値を超える。 ○「授業の中で友達と話し合いをしたことが役に立った」と回答する児童の割合が90%以上を保持する。	・マイプランに掲げた取組に対して、日々の実践後に定期的に振り返りを行う。 ・「学習のかまえ」の全校徹底 ・毎週金曜日のスキルタイムで、算数科での前学年からの基礎基本の定着を図る。 ・学びやすい環境作り(UD化・知的好奇心をくすぐる掲示物や振り返りに関する掲示物の掲示) ・「協働的な学び」を取り入れた授業作りを実践する。	A ・マイプランの成果指標を達成した」と回答した職員は100%であった。	A ・教師の学力向上への向けての成果がよく現れている。 ・学校での学び(学び方)について統一されて実践されている。 ・今後はさらに主体性をどう育てるかを考えていってもらいたい。 ・主体性の肯定をどのくらいの指標にするかが難しいのが…。	知育部
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「学級の友だちのいいところを見つけることができる」と回答する児童90%以上(R2:92.0%) ○「クラスの仲間の誰かが失敗したり、困ったりしているときに、声を掛けたり助けたりすることができる」と回答する児童90%以上(R2:94.3%)	・子どもの理解を基盤とした人の環境のユニバーサルデザインを意識した学級づくりを行なうために、人権・同和教育の視点に立った授業を積極的に取り入れたり、「特別の教科・道徳」を要として豊かな心、いのちを大切にする心を育てたりする。 ・認め合う、高め合う仲間への感謝の気持ちを育むために、「学級、学校ばかりかの木」の取組を行う。職員による児童のよさ見つけも行い、児童の自己肯定感を高める。 ・ひびき活動(級割り活動)での異学年交流を通して、思いやりの気持ちや協力する態度を育てる。	A ・「学級の友だちのいいところを見つけることができる」と回答した児童が、88.8%と低かった。特に低学年の割合が低かった。 ・「クラスの仲間の誰かが失敗したり、困ったりしているときに、声を掛けたり助けたりすることができる」と回答する児童が89.8%とわずかがらが上がっていました。 ・子どもの理解を基盤とした人の環境のユニバーサルデザインを意識した学級づくりを行なったことで、相手を思いやる心や豊かな心が育ちつつある。 ・「学級、学校ばかりかの木」の取組の学級で掲示していることを全校に広げる機会を設けたが、児童の自己肯定感を高めることが分かった。	A ・普段の子ども達を見ていて、他者への思いやりに努力している姿が見られる。 ・自他共の幸福こそ真の子どもの幸せ・生き方であり、そういう子どもを地域で育てていきたい。 ・ポジティブの侧面をいかに評価してあげるかが大事である。 ・ネガティブへの対処法をいかに子ども達に身に付けさせるかを考えていって欲しい。 ・対応力、処理能力、適応力等 ・人の環境ユニバーサルデザインの考え方をもとに、学校経営及び学校経営をしていることを評価している。	心育成部
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめ防止について、組織的に対応することができている」と回答する教員85%以上(R2:94.4%) ○「学校が楽しい」と回答する児童90%以上(R2:92.9%)	・年5回ほのぼののアンケートを行い、児童の学校生活の実態をつかみ、いじめの未然防止に努める。 ・教育相談月(6月)を年1回設け、担任が全児童に面談を行う。 ・年2回のQ-Uテストの実施、及び研修会をする。年2回の要保護児童の親察を行う。それらを基に児童の実態を把握する。 ・職員チームによるいじめ・命の講和を通して、いじめの未然防止に努める。 ・若狭小いじめの約束」をもとに、自分の約束を毎学期学級で書き出し、いじめをしない意識を高める。 ・年5回の子ども支援会議や年10回のスクールカウンセラーとの連携を通して、支援を必要とする児童への対応を充実させる。	A ・「いじめ防止について、組織的に対応することができている」と回答する教員が100%となっており、年5回ほのぼののアンケートを行い、児童の学校生活の実態をつかみ、いじめの未然防止に努めることができた。 ・「学校が楽しい」と回答する児童が93.5%と上がっており、全校児童の未然防止意識が高まり、安心して過ごすことができていることがわかる。	A ・若狭小いじめが少ないことが、地域の誇りである。 ・いじめは100%いじめた方が悪いという教育がすごく大事であり、若狭はきちんと対応されていて安心できる。 ・学年毎で追跡・比較をしてもらわないとありがたい。 ・いろんな子どもがいるので、子ども達自身いい勉強になる。生活の中で対応する力を身に付けていくことができる。 ・いじめに対する職員の意識が高く、共通理解をしながら、いじめ対応してもらっているので感謝している。 ・「いじめが少ない」とが、「学校が楽しい」につながっている。	心育成部
	○特別支援教育の充実	○「支援を要する児童のニーズに応じた取組を行った」と回答する職員90%以上(R2:90.9%)	・年5回の子ども支援会議で、支援を要する児童の情報交換・共通理解を行う場を設ける。必要に応じて職員連絡会で職員への連絡をタイムリーに行なう。必要に応じて、支援会議を開き適切な支援ができるように方策を立てる。 ・特別支援教育のスキルアップを図るために、講師招聘による研修を実施する。 ・授業のUD化へ向けた学習環境づくり、授業づくりを全学級で共通して実践する。 ・障がいの理解を促すために学年に応じた話をする機会を設ける。	A ・「支援を要する児童のニーズに応じた取組を行った」と回答した職員が100%であった。このことから、年5回の子ども支援会議で、支援を要する児童の情報交換・共通理解を行う場を設けたり、必要に応じて職員連絡会で職員への連絡をタイムリーに行なったことで、全職員が共通理解を図り、支援を要する児童に間違うことなどが分かること。	A ・特別支援教育の充実に力を入れてあり、大変共感する。 ・これからますます特別支援学校の児童数も増えしていくかもしれないが、今後も引き継いで取り組んでいただきたい。	心育成部
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●「授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間に420分以上」の児童80%以上	・朝の時間や休み時間に外で遊んだりマラソンをしたりすることを呼び掛ける。 ・児童会での体育行事、おはようタイムのマラソンを実施する。	B ・「授業以外で運動やスポーツを1日60分以上行うことができた」と回答した児童が81.2%であった。	B ・コロナ禍における子ども達の運動が減少している中での教師の努力は大変である。 ・声を出して運動をさせたい。 ・朝の時間に運動できる配慮もお頼りしたい。(登校時刻等) ・マラソン大会はいい伝統なので、ぜひ継続して欲しい。	体育部
	○歯科保健の充実	○「1日3回以上歯みがきをしている」と回答する児童75%以上	・給食後の歯みがきタイムを全校で実施する。 ・歯と口の健康に関する保健だよりや掲示物を作成し、児童と保護者が歯科保健の知識を増やす手立てを行う。	A ・「1日3回以上歯みがくことができた」と回答した児童が86%であった。	A ・若狭小子ども達は、歯磨きの習慣がよく身に付いていて、すばらしいと思う。このままきちんと歯磨きを続けて欲しい。	体育部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・月ごとの時間外勤務集計票を作成し、回覧をし意識付けを行う。 ・適正チェック表を使い、全職員で業務改善を検討していく。 ○下校時刻16時を共通理解し、各部の打合せ等の時間を確保する。	A ・10月以降、1ヶ月の時間外勤務時間が45時間未満の職員の割合が84.9%であった。会議等の開始時の遅延と会議等の効率化を図ったことで大幅な伸びが見られた。来年度も、更なる業務改善を行っていく。	A ・教師の多様性が求められている時代に、時間外勤務時間の削減は大変だと思う。 ・業務効率化を推進しながらも、全職員が「今業務にやりがいを感じている」に感服する。	教務部
	○タイムマネジメント・タスクマネジメント能力の向上	○「タイムマネジメント・タスクマネジメントを意識して業務に取り組むことができた」と回答した職員70%以上	・仕事に優先順位をつけ、計画的に効率よく取り組む。 ・仕事のゴールを決めて取り組む。	A ・「業務の効率化は進んでいる」84.6%、「タイムマネジメント・タスクマネジメントを意識して取り組んだ」96.2%と共に中间評価より4%高い数値となり、その意識を徐々に浸透させたことが時間外勤務時間への反映となった。	A ・行事の見直しや会議の効率化に取り組まれているのが浸透しており、教師の意識が高めののが嬉しい。 ・全てにおいて学校におんぶに抱っこになっている現状が、やりがいがあるは嘘ではないのに先生になりたい若者を減少させているのではないか。佐貫は倍率も低い。今の先生への要求は大きく、多様性を求められている。	教務部

評価項目	重点取組 重点取組内容 成果指標 (数値目標)	具体的取組 達成度 (評価) 最終評価 評価 学校関係者評価 意見や提言	主な担当者		
◎志を高める教育	◎自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	◎「自分の夢や目標に向かって努力しよう思っている」と回答する児童90%以上(R2:93.3%) ・自らの夢や目標に向かう取り組みについて振り返りを年間1回以上行う。	A ・「自分の夢や目標に向かって努力しよう思っている」と回答する児童の割合は、96.0%であり、成果目標を十分に達成できている。	A ・子ども達の未来に向かっての挑戦に期待している。明るく真っ直ぐに努力して欲しい。	知育部
○地域との連携の充実	○家庭・地域との連携・協働を強める学校づくり	○地域行事への参加を促進し、「地域の行事に進んで参加した」と回答する児童を80%以上にする。	B ・「地域行事に参加した」に対してそう思う。大体そう思うとした児童の割合は60.1%であった。「地域子ども教室」が再開されそうになつたが、新型コロナ感染の拡大に伴い、再び中止になり、参加できなかつたことが懸念であった。コロナ感染拡大が収まれば、地域の行事が再開し、多くの児童が参加できるよう学校でも新型コロナ感染対策を万全にしてほしい。	B ・コロナ禍における子ども達の運動が減少している中での教師の努力は大変である。 ・声を出して運動をさせたい。 ・朝の時間に運動できる配慮もお頼りしたい。(登校時刻等) ・マラソン大会はいい伝統なので、ぜひ継続して欲しい。	指導教諭

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	学校評議員会において学校の現状や今年度の取組について、説明したところ、すべての委員から肯定的な意見をいただき、3つの取組内容でB評価をA評価に変えていただいた。そのため、ほぼ全ての項目で「A:十分達成できている」という結果になった。全職員が共通理解・共通実践のもと組織として取り組んできた成果だと考える。次年度に向けて以下の点を改善していきたい。 ・教師だけでなく児童自身が、単元を通して身に付ける資質・能力を見通す「学びのプラン」を作成しながら、研究を継続していく。 ・多様な子ども達が安心して学べる学級づくりに向けて、職員と共通理解をしながら人の環境ユニバーサルデザインの意識をより充実したものにしていく。 ・コミュニティースクールの初年度として、学校運営協議会を中心に学校運営及び教育活動を推進していく。
5 総合評価・次年度への展望	